

# 広島大学学術情報リポジトリ

## Hiroshima University Institutional Repository

Title	山口県文書館蔵「近藤芳樹日記」翻刻（十六）
Author(s)	久保田, 啓一
Citation	内海文化研究紀要 , 50 : 29 - 44
Issue Date	2022-03-31
DOI	
Self DOI	<a href="https://doi.org/10.15027/52334">10.15027/52334</a>
URL	<a href="https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00052334">https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00052334</a>
Right	Copyright (c) 2022 by Author
Relation	



# 山口県文書館蔵「近藤芳樹日記」翻刻（十六）

久保田 啓 一

## 凡 例

- 一 漢字は、常用漢字に含まれるものはそれを用い、他は正字体とした。ただし、「井」のように、組版の都合を考慮して俗字を使用した場合がある。また、明らかな誤字は訂正した。
- 一 平仮名・片仮名については、書き分けに意味があると考えられるため、底本の表記に従うのを原則とした。平仮名の文脈中にあられる「ニ」「ハ」「ミ」もそのままとした。なお、合字の「ヤノ」などは、それぞれ「コト」「シテ」などに開いた。
- 一 適宜句読点・濁点・半濁点・中黒を補った。
- 一 漢文の訓点は、明らかな誤りを正した以外は底本のままとし、新たに補うことはしなかった。
- 一 踊り字は、ゝを「々」とした他は底本通りとした。
- 一 校訂者による注記は、〈表紙〉のように（ ）で示し、底本に使用される（ ）とは区別した。
- 一 欄外や行間の補記、割注の類は、〈欄外〉〔○○○○〕・〈傍注〉〔○○○〕・〈割注〉〔○○○○〕のように「」で括り、底本に使用される「」とは区別した。
- 一 底本の行移りには従わず、内容に応じて適宜改行した。また、改頁を示すことはしなかった。
- 一 闕字・台頭・平出の類は無視した。
- 一 日付・天候の記述から本文に移る形式は冊によって異なり、統一がとられていないが、日付・天候を一字下げで書き始め、本文を続

ける形式に統一した。

- 一 通読と検索の便を考え、各冊の最初と最後には〈第〇冊 表紙〉（以上 第〇冊）と校訂者注記を掲げ、各月の初めには〈文政九年〉のように該当年を注記した。

- 一 全冊の本文掲載終了後、索引を付す予定である。

〈承前〉

〈扉〉

付紙

十六、〈割書〉（自安政二年十月廿一日、至同三年三月廿八日） 江戸

在勤 奥州北陸巡歴 帰国

寄居日記

（原本題記ナシ）

〈本文〉

十月〈安政二年〉廿一日。晴。当番。

朝ノ間地震。

廿二日。晴。非番。

朝之間地震少シ。僕源蔵浅草ニ詣ヅ。金二朱 源蔵ニカシ。

廿三日。晴。明番。

廿四日。雨。当番。

廿五日。晴。非番。

廿六日。晴。明番。

此節風氣ニテ引こもりハせねども咳嗽甚つよく、難義。

廿七日。雨。当番。

廿八日。晴。非番。

〔頭欄〕〔〇〕隠岐殿来月二日三日比帰国之由ニ付、暇乞とシテ桜田御屋敷へ罷越、佐藤寛作同伴也。夫より原孝庵方へ行、くすりをもちひ帰る。

廿九日。晴。明番。

十一月〔安政二年〕一日。当番。

如常得一亭へ御出ニテ、隠岐殿、同嫡子少輔五郎殿、益田伊豆殿及清水美作被召出、御馳走被下之。其外御役人通、御小性中御医者ニ至まで、御前ニ於て御酒頂戴、其外今日出勤之面々、於御次同断。今日於桜田御屋敷、諸士中足輕之下共御酒頂戴、凡二千入ほどありとぞ。

二日。晴。非番。

早朝より他、原孝庵方ニテ温飽を食し、それより両国山田佐介を訪ひ、小梅小倉菴の向ひなる鈴木重胤が亭を尋ぬ。小倉菴も地震にて焼失、重胤が家も倒れて仮宅なり。それより東橋をわたり、上野広小路出、駿河台なる安積良斎をたづぬ。松岡良哉が明日三日ニ暇乞として下人を遣ハし、恒之介へけんさい柄皮つば袋さや袋を遣ハす。

三日。晴。明番。

四日。晴。当番。

五日。雨。非番。

六日。晴。当番。

七日。晴。非番。

弥太郎風邪ニ付、今日当番ニ相成候事。

八日。雨。非番。

九日。晴。当番。

今日上使堀田備中守殿御出被成、御両殿様御引受被成候御礼として

清末様御登城被成候事。

十日。晴。非番。

今日灸治。兩三日已然、宍戸家来鈴木廉蔵、美濃殿家督御礼として参着。尤若殿様へ之御礼ニテ候。仍之廉蔵宿嘉町之鳶頭吉原方へ罷越、相对。廉蔵此節風邪ニテ未出仕不致候事。

十一日。晴。当番。

十二日。晴。夜雨。非番。

新道の原へまかり、かしこ爰あそびてかへる。夜にいりて岩瀬涼仙来る。これハ、永寿院殿といふ尼公の父なるゆゑに、この尼公の固屋に滞留に來れるを迎へたる也。涼仙もとハ京山といふ戯作者也。今日より弥太郎病氣平愈ニ付、御番にいづ。

十三日。晴。明番。

夕がた鈴木廉蔵が旅宿を訪ふ。それより十番の林田小右エ門がもとニ至る。茶入を一土産とす。小右エ門ハ地震已来御普請御用掛として毎日出勤、夜入をするよしにて逢ず。悴の部やへまかりて百島檢校といふ盲僧と同席にて酒宴におよぶ。百島ハもと城美代といひしよしにて、楊井孫太郎なども懇意なるよし也。

十四日。雨。当番。

明朝益田伊豆殿出立ニ付、くれて後暇乞としてまかる。今日山田佐介來りて類従本のことをいふ。

十五日。晴。非番。

鈴木廉蔵より内勤〔傍記〕〔力〕として安富久平へ金二百疋遣す。おのれこれを取次たり。また新御殿の記録所の筆者中村庄作へ金二百疋、また久平へたのむ。

十六日。晴。明番。

無事。

十七日。晴。当番。

無事。

十八日。晴。非番。

今日殿様御前様、大御殿御奥へ御移り被遊候。今夜より御鈴(傍記)〔錠力〕口御べり有之。遠田弥太郎出勤。余ハ上野ノ方へ行、清涼亭ニテ中食、仲田頭忠ヲ訪フ。浅草御堂ノ横ワキニ移リスメリ。尾藩ノ浅野栄十郎ト云人ニアフ。御目付役也。

十九日。晴。明番。

今朝御鈴口ヲ開ク。今夜紀藩ノ江川左金吾来訪。加納諸平書状持参。鯉節五本予ニオクル。

廿日。晴。当番。

無事。

廿一日。晴。非番。

廿二日。晴。明番。

廿三日。晴。当番。

瀬能吉次郎ト埴氏ヲ訪フ。上半紙二束、鯨ほり三ヲ贈ル。

廿四日。晴。非番。

〔頭欄〕〔○〕村田春野方へ招カル。日クレテ帰ル。茶碗一ヲオクル。埴氏ヨリ園太曆ヲカル。

廿五日。晴。明番。

廿六日。晴。当番。

廿七日。晴。非番。

井原吉兵衛・佐々木省庵ト同伴遊行、東海寺ニ詣デ、少林院ノ泉居先生の碑ニ詣デ、品川ノ川崎屋ニテ中食、帰路彼辺ニスム中田宗閑ト云茶人ヲ訪フ。庭前流水清潔也。今日内藤吉兵衛・宮城惣右エ門、御用ニテ来着。

廿八日。晴。明番。

廿九日。晴。当番。

晦日。晴。非番。

朝ヨリ原孝庵を訪ひ、横山町宮崎、カハサニ木挽丁久松をとひてかへる。

十二月(安政二年)一日。晴。明番。

二日。晴。当番。

三日。晴。非番。

原孝庵許ニユキテ、町人大坪ガ方へ土佐万次郎ヲ呼び相對スベキ事ヲハカル。

四日。晴。明番。

五日。晴。当番。

六日。晴。非番。

七日。晴。明番。

鈴木康蔵同伴ニテ遊行、昼餉ヲ上野池端ノ蓬萊亭ニテす。くれて後帰ル。夜食ヲ神明前之平松ニ調フ。

八日。晴。当番。夜雪。

今夜雪降。

九日。晴。非番。

十日。晴。明番。

木挽町さくらヤを訪ひ、それより桜田御館ニ至リ、紀伊御屋敷ニテ江川左金吾ヲ訪フ。丁寧ノ馳走アリ。丹鶴叢書ヲカリテ帰ル。

十一日。晴。当番。

今日銀姫様、於御裏御手し石染之事有之。仍て式日出仕之面々、上下着刀。夕方山田佐介、福恵全書ヲ持来ル。

十二日。晴。非番。

三寿姫様、清末御縁談の御願今日有之。淡路守様御登城。仍之殿中上下着刀。

十三日。晴。明番。

十四日。晴。当番。

十五日。晴。非番。

十六日。晴。非番。

十七日。晴。当番。

十八日。晴。非番。

十九日。晴。明番。

〔頭欄〕〔○〕活字板ヲ山田佐介ヨリ買得。但御上ノモノ也。字数  
カナ片カナヲそへテ一万四千字、代金九兩也。

廿日。大雪。当番。

廿一日。晴。非番。

今日活板山田佐介ヨリ持来ル。蕎麦（マ）ヲ買フ。

廿二日。晴。明番。

弥太郎ト同伴、外出。山田佐介方へ至ル。活板料九匁コレヲワタス。

廿三日。晴。当番。

廿四日。晴。非番。

廿五日。雪。明番。

廿六日。晴。当番。

廿七日。晴。非番。

町方へ出ヅ。

廿八日。晴。明番。

廿九日。晴。当番。

安政三丙辰

正月〔安政三年〕元日。晴。非番。

熨斗目上下着、御帳被成、それより諸方廻礼。

二日。晴。明番。

三日。雪。当番。

四日。晴。非番。

福原正兵衛気分相ニ付二番。

五日。晴。当番。

六日。晴。非番。

原孝庵方へ行。

七日。晴。当番。

今日当番ナレドモ、村田春野方よミそめニ付、瀬能同道ニテ午後罷

越。本居豊頼来ル。また雲州之朽木廉兵衛恭敬来ル。御引ヶ前ニ帰ル。  
直ニ御ヒケニ出。

八日。曇。非番。

九日。晴。当番。

十日。晴。非番。

十一日。小雨。当番。

十二日。曇。非番。

十三日。曇。明番。

今日より福原庄兵衛快気ニテ出勤ニ付、直ニ当番。

十四日。晴。当番。

今夜灸治。

十五日。晴。非番。

鈴木廉蔵を墨水に同伴、安戸右兵衛主家のゆかりにてこれも同伴、  
早天ニ下場へ見物ニツレ行。正月二日御登城、御両殿様トモニ故アリ  
テ御延引ニ付、今日御両殿様トモニ御登城ナリ。ソレヨリ木挽町佐倉  
屋ニ至リ、暫ク右兵衛ガ来ルヲ待ツ。辰時スギ右兵衛来ル。佐倉屋楼  
上ニテ小酌、舟ニノル。芸妓一人、さくらヤノ亭女於鉄、并ニ廉蔵ガ  
家来一人ノル。舟中ニテマタ小酌、墨水ニ出ヅ。春色既ニ水上ニ泛ビ  
テ、紅霞ノ水面ヲ覆ヘル、マコトニ浮立バカリナリ。新鳥越ノ八百番  
ニ入テ中飯ヲ喰フ。

献立

皿 あらひ 〈小書〉〔ワさび 鮎 あまず〕

汁 〈小書〉〔仙台ミソ うど 水からし〕

椀 〈小書〉〔よせ白魚 ひとしほ雁 つみせり〕

焼物 〈小書〉〔ほうく 付やき〕

八寸 〈小書〉〔さごし玉子巻 ほしぶどう かまぼこ〕

井 〈小書〉〔もやしずいき ひらめあら作り 木くらげどん  
けしぬた〕

汲物 新わかめ

茶子 きんとん

ソレヨリ向島の百花園ニ至ル。梅花少シサケリ。マタ舟ニカヘリ舟  
中小酌、青柳ニテ一肴ヲ買ヒ、与兵衛船ヲ求メ、暮テ後佐倉ヤニ上リ、  
マタ酒宴。亥時前ニカヘル。通町ヨリ駕籠。

十六日。晴。非番。

今日例年之通御門留ニ付不出。

十七日。晴。当番。

浦賀御陣屋少々焼失、大筒等焼失、合葉蔵焼失。

十八日。晴。非番。

十九日。晴。非番。

廿日。晴。当番。

廿一日。晴。非番。

廿二日。夜雪。非番。

廿三日。雪、未時ヨリ晴。当番。

今朝鈴木廉蔵帰国。蜃気扇十本せんべつとして遣ぬ。

廿四日。非番。

廿五日。明番。

廿六日。晴。当番。

廿七日。晴。明番。

廿八日。晴。明番。

廿九日。晴。当番。

晦日。晴。明番。

二月（安政三年）一日。晴。非番。

今日泛舟。原孝庵一家内同伴。

二日。晴。明番。

三日。晴。当番。

四日。雨。非番。

五日。晴。明番。

六日。晴。当番。

七日。晴。非番。

八日。晴。当番。

九日。晴。非番。

牛込榎木町二八組二屋敷、内藤浜次郎ヲ訪フ。故実家也。留守ニテ  
あはず。

十日。晴。明番。

内藤浜次郎ヲ訪ヒ、クサヅノコトヲ談ズ。カハサニ良齋ニ立ヨル。  
密事ヲ談ズ。

十一日。晴。当番。

十二日。雨。非番。

十三日。晴。非番。

今日御暇之上使御老中御出。予ハ非番ニ付、本所津軽屋敷ノ旁、江  
川太郎左エ門殿ノ内ニ高島四郎大夫、及満次郎といふ、異国へ行タル

人ノ居ル所ヲタツス。

十四日。晴。当番。

十五日。晴。非番。

書物式拾四包御小納戸へ出ス。今日御礼御登城。且又御賞美發シテ、  
鞆負殿千石、三井善右エ門・志道主水八十石、其外御加増等多ク有之。

予ハ早朝より暇乞トシテ他出。紀州屋敷、

江川左金吾

本居中衛

ヲ訪ヒ、ソレヨリ鰻魚百疋ヲ大和田ニテ買ヒ、岡田春平ガ浜松丁ノ亭  
ニ行ク。

鈴木重胤

ト約シテ会ス。将監橋ニ住居ノ医、

三角健堂

来ル。慷慨家也。九松軒ノ記ヲアツラフ。マタ重胤同伴ニテ荒井駅ノ  
本陣、

飯田武兵衛

マタ来ル。風流家也。今夜健堂話ニ、両つ山金銀ノ器物御取上ゲナリトゾ。マタ同人話ニ、公儀ノ炮術家井上左大夫ト云モノ、コレマデ皇国ブリノ炮術ナリシヲ、洋流ニ改ムベキ由命アリ。左大夫謹テコレヲ受ケ、カヘリテ後切腹、ソノ書置ニ、和蘭トモニ実験未ダセザルトキハ、イヅレヲカ是トセン、希クハ皇国ノヲ主トスベキヲ、ソレヲ以テ家ヲナセル某ヲ、ソレヲ捨ヨトハ、命ハ奉ズベシ、然レドモ生テカヒナシ、トイヘリトゾ。夜前下谷札〔傍記〕〔弘カ〕福寺近辺ヨリ出火、佐竹侯・柳川侯等焼失、其外延焼数丁ナリ。

十六日。晴、申時ヨリ小雨。明番。

〔頭欄〕〔〇〕塙氏へ至ル。白川関に知己アリ、コレへ書状ヲ付スベキヨシイフ。ソレヨリ村田へ至ル。越後ノ高田ニ東条琴台トイフ儒アリ、コレニ書状付ベキヨシイフ。雨ニナリテカヘリヌ。ヒルノホド雲州留守み所ノ役人

朽木廉兵衛

ヨリ不味侯ノ御懷石帳一冊ヲオクル。出立マへ閲覧ヲ得ズ。遺恨ナガラ村田春野マデカヘシヌ。マタ予蔵ノ飾抄一冊、サイツコロ村田春野ヘカシタリケルニ、今少シカスベシ、徳山邸ノ老女瀬川へ託シテ御国へ送り届クベシトゾ。

十七日。雨。当番。

公台東御殿へ成セラレタリ。昨日聞ケリ。伊セノ人ニテ今ハミヤコノ北野ニスメル西来寺宗淵、コレ塙氏ノ知ル人ナリ。

十八日。晴、時々雨。非番。

十九日。晴。

五ツ半時御機嫌克御発駕。余、林主税ト御留守居高洲平七ニ請テ、御裏口の御ペリをす。その後御添書其外取テ、明後廿一日出足之用意を行フ。

廿日。晴。

桜田御屋敷ニ暇乞トシテ来リ、内藤吉兵衛方ニテ中食をし、それよ

り小池小兵衛宅ニマカリテカヘル。今日ヨリ以下ノコトドモハ次条ニ詳ナリ。

廿一日。

志道老人ノ振廻ニテ平清二行、スグニ原氏ニヤドル。

〔扉〕

帰国日記

〔割書〕〔安政三〕二月廿一日出足

廿一日。晴。

きさらぎの廿一日、きのふの雨なごりなうはれて、空のけしきもどかなるに、志道主水・佐々木省庵など、馬のはなむけの宴催さんとて、深川なる平清といふ庖丁がもとにいざなへり。いとねんごろなるあるじなりけり。名だかき庖丁にしあれば、家もいとひらうしめてつくりたりけれど、こそこのなみに倒れふしたるを、まらうどゐとおぼしき南おもてを一聞二間おこしたてたるにあないせり。かへさに两国橋の岸まで舟をのぼせて、文会堂といふふみあき人のがり立よれり。省庵けふのつとにとてはまぐりあまたもとめて、これにうたひとつそへ給へ、東の院にまゐらせんといふ。

すみだ川のどけき春の波わけてひろひし梅の花貝ぞこれ

原孝庵が家にやどりぬ。

廿二日。

くもれり。原氏を朝とく出て前田夏蔭が下谷なる家たづねてまかりぬ。蝦夷の境の事ども、おほやけにても明らかならぬを正しものすべきよしの仰うけ給はりて、このほどさるすぢにくハしき博士どもつどへて、その地理志撰びととのふるよしかたる。からふと島の名義をとひけるに、からハそしゝのから国と神代紀にミえたるからなるべく、ふとハ大きなをふときといへば、太くて空なるよしの名なるべしといふ。夏蔭が家を出て仲田顕忠がもとに立よれるに、これハ歌の道を

のミすける人なれば、正月よりよめる詠草どもとり出てかずくかたり聞す。

春雨に匂へるさくら画にかゝバかほよき人のなきしおもかげ

夢さめバ花のねぐらの鶯もさえづりぬべき春のよの月

また、

藤のもり山吹のせ（傍記）「かカ」ぞなつかしきみやこのたつミ

はるふけしより

などミなめづらし。わかれて原氏にかへりぬ。

廿三日。雨。

原氏のいへにをり。

廿四日。曇。

原氏をたつ。向島の小梅に鈴木重胤があるに立よらんと、两国のたに行。

すミだにハ橋ありといふを月のまへのわが涙川いかゞわたらん  
おもふ事ありてよめる也。吉川町なる山田左介とて書林のあるをと  
ぶらひて小梅に行ぬ。こゝにて昼餉たうべて橋場をわたりて、吉原の  
妻手のかたの田畝をつたひて千住に出ぬ。こよひハ越が谷の高島やに  
やどりぬ。

廿五日。曇、昼後雨。

朝とく出たちぬ。下野人をとみなふ。此人の話に、結城の木綿じま、  
近比高機にて織侍り。高機になりて木綿あしくなれり。平機のかたよ  
し。むかしハミな平織なりとぞ。此わたり多くハ水田にて、田にハ麦  
を蒔ことなし。越谷より三里来て、春日部の里なる名主関根八郎が許  
にやどる。此所まことの墨田川のととなりとぞ。その川宿の東の端に  
あり。川の向ひ今ハ武蔵国となりたれども、昔ハ下総の葛飾郡の内な  
りとぞ。千種有功卿のうたあり。

マタあるじ孝純ガ父松蔭翁ガカケル記アリ。云、

上野のとね川、秩父のあら川とおちあひて、武蔵・しもつふさの  
界を大江門にながれるを、すミだ川となんいひける。とねの水

ハ中川にわかれ、秩父のすゑハ浅草川となりての後ハ古すミだ川  
といへり。東海道より陸奥にゆき、する駅路、春日部の里にあり

て、名にしおハバと業平の中將のうたひ給へる所なり。今ハ都鳥  
もすまず、わたりのあともさだかならねど、板橋かけわたしたる  
岸のあたりや船まち給ひし跡なるべき。云々。

このさとにミヤこの人の舟まちてみつうまやとハなしは（傍記）

〔は〕じめけん

とミユ。おのれ春雨そぼふる日にこの関根氏をとぶらひけるに、うた  
ひとつのこして後の世の証ともせよといへるに、

ことゝハん鳥の羽なきも露けくてむかしこひしき川の春雨

廿六日。晴、夜雨。

巳ノ時バカリニ春日部ノ里関根八郎ノ亭ヲ立ツ。コ、ハ春日部甲斐  
守実景トイフ人ノシレル所ナルヨシ、東鑑ニミユ。コノ人泰村ノ乱ニ  
法華堂ニテ自滅セシヨリ、コノ人ノ系タエタリ。

午時バカリニ粕壁ヲ立ツ。関根八郎送り来ル。彼者等ノイヘル墨田  
川ヲワタル。板橋カ、レリ。此所川ノ向ヒ下総ニハアラテ武蔵ノ国ニ  
テ葛飾郡トイフ。葛飾ハ下総ノ地名ナルヲ、後ニ武蔵ニ隸セラレタリ。  
コレニテコノ所スミダ川トイフ説正シカラン歟トオボユ。カツ忍城ヨ  
リ十里バカリアリトゾ。忍ハイニシヘノミよし野の里ニテ、今モ城内  
ニ三吉野天神トテ在五ヲ祭レル社アリトゾ。在五カシコヲ立玉ヒテ

コ、ニ来玉ヒタルトキ、渡守ノ、日もくれぬ、はや舟にのれトイヒケ  
ンモ、ゲニモトオモハル。ムカシノ官道、江戸ノ中ニテ赤坂紀侯ノ御  
邸中ナル御庭ノ内ナルヨシライフ。ソレヨリ忍ノ方ヘ向ヒテ、忍ヨリ  
コノ春日部ヘ出、奥州ヘ下リケンニハ、江戸ニ墨田川ノアルベキヨシ  
ナシ。カツ浅草の辺マデハ入海ナリケンニハ、今ノ千住宿ヨリヤ、北  
西ノ方ヲ過ケンコト知ルベシ。サテ関根八郎ニイザナハレテ桃ノ多カ  
ル畑ヲミル。イマダ花開ケズ。コレミナ実ヲ取テ江戸ニ出ス。コノ辺  
ノ産物ナリトゾ。マタコノワタリ、くわい・ゆりの根等イトヨシ。ミ  
ナ江戸ニ出スナリ。西北ニアタリテ岩槻城ミユ。関根ニワカレテ官道



フヤ、來テ杉戸宿ナリ。ソレヨリ幸手ヲ經ル。此所賑ハシ。商人ノミセ、呉服店ナド大ナルヨリ、駅ノハツレヨリ栗橋マデ馬ニノル。百二十文也。栗橋名物ハ餅味ヒ佳ナラズ。コノ駅ノハツレニ関所アリ。過所イラズ。関ノモトヨリ舟ニノル。コレ利根川ナリ。川ヲワタリテ中田ヲ過、松原ヲ過テ古河ニ至ル。土井大炊助ノ城下也。駅の太田屋トイフニヤドル。コノ所梨子ノ名物アリテ諸士ノ園々ニコレヲ植、一軒ニ或ハ三十両、或十両ナド、一年ニ取ルナリトゾ。

利根川ヲワタルトテヨメル

ミなかミに山ハ見えねどうすにこり雪げに似たり刀祢の川水

東のかたにつくば山ミゆ

つくばねに霞なびけりさほ姫のかぶひにたてる衣とみるまで

廿七日。晴。

ヨベノ雨ニマタ道アシクナレリ。日出テ太田屋ヲ立ツ。野木ノ駅ヨリ宇都宮マデノ間、官道ノ左右タゞ草木ノミシゲレル荒原ニテ、駅ロノ外ハ家モサノミナシ。ヨリノ畠アリテ麥ナド青ミワタレリ。ソノ間凡十一里バカリナリ。雀ノ宮駅ヲ過テ、ヤ、サダ過タル女一人來レルヲ伴フ。越後ノ新潟ノウマレナルガ、故アリテ宇都宮ニスメリトイフ。コヨヒ手塚ヤト云フ逆旅ニヤドル。

廿八日。晴。

日出ほどに立て日光道に入る。すぐにゆけば奥州道なり。こゝにある宮都宮社ハ、宮殿の壯麗日光に似たり。社領三千石公義ヨリ付玉ヘリ。大沢駅にて昼餉たうべて、申の時ばかりに日光ニ入る。御橋をわたりて、御宮の前を川ぞひに左のかたへ行て、桜正坊といふにつきぬ。両国吉川町山田左介より添書したるによりて也。此ほど三社権現の祭の前斎のほどにて手踊あり。源藏ハこれを見にゆけり。おのれハつかれたるによりてふしぬ。坊主へ、京山の染筆、広重の染筆の扇をつかハせり。

十九日。晴。

あしたのほど坊主に逢て何くれとかたらふ。中禅寺の登山をすゝむ

れども、雪まだ深きよしいふ人のあるによりてのほらず。坊名の桜正の字雅ならず。坊主にとゞへば、これハ始ハ照字なりしを、奥羽に檀越多くて、その男女の参詣するが知れやすからん為に、照を通音のまゝに正字になせるなるべしといふ。さもあるべし。歌など書てつかハす。さて御宮に参詣す。西谷より出て善如寺谷ヲ經。コノ辺僧坊多シ。安養坂ヲ上ル。コ、ニ新宮権現ノ別当社(割書)ニ三社権現ナリヲ過ギ、左縁ニ常行寺アリ。コノ内ニ頼朝ノ骨塔ヲ納ム。俗ニ頼朝堂トモイフ。ソノ上ニ法花堂アリ。コノ常行ト法花トノ間ニ棟ツゞキニテ楼門アリ。コノ門ヨリ三丁ホド上リテ慈照大師ノ御廟、并ニ御門主御歴代ノ廟アリ。ソレヨリ西ノ方ニ二王門アリ。コレ三代公ノ御靈屋ナリ。二王門ノ内ニハ入ラレズ、外ヨリ拝ス。御別当竜光院ト云。ソレヨリ北方ニメグリテ、新宮権現大穴貴ヲ祭。御門アリ。拝殿アリ。ソレニツゞキテ東ノ方大堂アリ。三仏堂トイフ。千手弥陀馬頭ノ三尊三社権現ノ本地滝尾権現ニマウツ。ソレヨリ竜光院ノ脇ヲ通り、中ホド二行者堂アリ。役行者ヲ勧請ス。側に休息所アリ。ソレヨリ下リテ二丁ホドユキ、素麵滝アリ。側に不動堂山王社アリ。北ニ向ヒテ石階ヲ上リ、右ニ滝尾別当所アリ。二十間ホド行、楼門アリ。二王アリ。女躰中宮ノ額、弘法大師ノ筆、拝殿御唐門ヲ入り御本社アリ。滝尾権現コレナリ。田心姫命ヲ祭ル。西ニ向テ本地堂弥陀ヲ勧請ス。川ニツギ一丁ホド乾ノ方ニユキ、子種石アリ。子ナキ者守リヲウク。懐妊スレバ石ヲフサシテ納ム。側に池アリ。いづミガ池ト云。昔シ酒ノ涌出セシ所ナリトゾ。三本杉アリ。ソレヨリ下向行者堂下道ヲクダル。飯盛杉トイフ大木アリ。常ニ注連ヲヒク。手掛石十間ホド行テ天神社アリ。開山堂、開祖勝道上人及十弟子ノ像ヲ安置。産ノ宮、婦人安産ヲ祈ル。

三丁ホドサガリ、本宮権現ノ地ニ入ル。白木ノ大堂アリ。四本立寺トイフ。観音ヲ安置ス。コノ堂、開山勝道上人修行ノ道場ナリ。昔ハ紫雲立寺トイフトカヤ。脇ニ紫雲石アリ。三重塔アリ。実則公ノ建立。本宮権現ハ本社アヂスキ高座根命ヲ祭ル。本宮別当所南向也。鉢石町

東ノ方ヲ見ハラシテ尤景地也。

ソレヨリ中山ヲ通り、東方宮様御殿西ノ方御殿地、御殿建ラレシ跡也。石ノ鳥居〔割書〕〔黒田長政寄附〕、東照大権現ノ勅額〔割書〕〔後水尾也〕、西脇ニ五重塔、東ノ方ニ御飯殿、マタ時ノ鐘ヲカク。二王御門行アタリテ三神庫〔割書〕〔アゼ倉ノ形〕、左脇ニ御馬屋、御手水鉢〔割書〕〔鍋島侯寄附〕、経蔵〔割書〕〔輪蔵〕、西ノ方ニ薩侯ノ燈籠二基、東ニ仙台ノ鉄燈籠、石階ヲ上リテ左右石柵一つ石ノ飛越獅子アリ。西ノ方廻シ燈籠〔割書〕〔オランダ寄附〕、并ニ釣燈籠、東ノ方ニ蓮燈籠〔割書〕〔朝セン奉納〕、東ニ虫クヒ鐘、東鐘楼、西ニ鼓楼、西ニ大堂アリ。御本地堂トイフ。鳳来寺ノ薬師ヲウツス。陽明門アリ。コレ勅額門也。左右廻廊大ホリ物アリ。西ノ方ニ神輿堂、御唐門、玉垣二十五間四面、御拝殿、御本社ノ間ヲ岩ノ間ト唱フ。東へ廻テ神楽殿、護摩堂、ソノ表ニ廻廊アリ。別当所マデツバク。ソコヲ下リテ右へ入テ惣輪塔ヲミル。

恭観東照大権現宮作歌

東照 神の命の 大宮を ふとしくたてゝ 萬代と しづまりませる ふたら山 のぼりてミレバ 目かゞやく くがねしろがねくがねを のべし柱 しろがねを へれるうつバリ うまこりのあやにかしこし 言さへく からのこきしも その国の 宝をミつき わたつミの おきなのをさも その国の 宝をすたし ミづがきの 内外かざれり こをもへバ 神のミいつハ 東を 照すのミかハ 日の本を すべて照せり 日本を 照すのミかハ から国も えみしの国も 天地の そくへの極ミ 塩味の とゞまるかぎり 国といふ 国の八十国 島といふ しまの八十島 ことごとくに 照しますすらし 仰がざらめや たふとバざらめや 申ノ時バカリニ桜正坊ヲ立出テ、綿半トイフ菓子屋ニテ羊羹少々買得シテ、スグニ鉢石通今市マデ下リヌ。コヨヒノ逆旅ヲ岸や幸七トイフ。脇本陣ナリ。夜ニ入テ雨フル。

三月〔安政三年〕一日。曇、夜雨。

今市ヲ払曉ニタツ。大渡ヲ過テ絹川ヲワタル。コノ辺ノ大川也。水上ハ黒髪山ヨリ出ヅ〔割書〕〔男躰山ノコト也〕。ソレヨリ船生・玉生ヲ過グ。至テヨカラヌ田舎也。左ノ方ニ黒髪山ヲミル。

さほ姫のかざしの衣とみるまでに黒髪山に雪の残れる

高内村・矢杓村ヲ過テ、沢村ヨリイハユル那須野ニ出ヅ。暨十三里横七八里バカリ、タゞ茫茫タル茅原也。但沢村ヨリ大田原ノ間ハ至テ狭クテ二里バカリ也。イマダクレザルホドニ大田原ノ川島屋ニツク。ヨキ逆旅ナリ。

雪さゆる黒かミ山ハとほけれど衣手寒しなすのしの原

二日。晴、時々小雨。

払曉ニ大田原ヲ立ツ。コレヨリ少々高低アリ。然レドモナホ那須野ノ内ナリ。但キノフトハ異ニテ所々ニ村邑モアリ。鍋掛ヲ過、芦野駅ニテ昼餉ヲブ。殺生石ノ事ヲトフ。コノ駅ヨリ六里バカリ北ナリトゾ。ソレヨリ一里半余来テ、寄居村ニ抜苦山与楽寺トテ真言ノ寺アリ。コヽニテ憩フ。芦野ヨリ一里余ナリ。ソレヨリ二里バカリ来テ白坂トイフ。コノ所下毛ト奥トノ境也。境内神社アリ。コヽヨリ白川領ナリ。コヽヨリ道ニ並木松アリ。中国路ノ如シ。江戸ヨリ日光マデハ多クハ杉ノ並木ナリ。日光ヨリ芦野マデハ並木ナシ。白坂アタリヨリコナタハ山ニモ並木生シゲリテ中国路ノスガタアリ。申ノ時バカリニ白川ノ村上屋伝右エ門トイフ逆旅ニツク。浅野恪左エ門へ塙次郎ヨリオククル書状、コノ家ニタノム。村上屋伝右エ門ハ風流家ナリ。後庭ニ秋のなゝくさをうゑて秋香園ト号セリ。ヨツテ歌ニ首ヲ作テオクル。

秋風のふくにこえなばなゝくさの花も見ましを白川の関

情ある人の心の花をみつ秋のさかりハとハズともよし

コノ庭ノ七草ハ、ムカシ此所ヲ樂翁公ノ知シ召セルホドニ植サセ玉ヒシ御庭ノヲ、御移封ノ時ワケテモラヒタルナリトゾ。詩仏ノ碑ニアリ。〔小書〕〔あるじ松島一見をすゝむれども、彼地古歌ナドニヨメリシ如クニハアラヌヨシイフ人ノアルニヨリテ、もしも見て見おとりの

せバ、かへりて後ニ歌おもひの情ニかなハジと思ひて行ズナリヌ。」  
〔頭欄〕「みちのくの名におふかたを見んよりもいもハまつしまはやくかへらん」

白川関の跡ヲタツヌルニ、コヽヨリハ二里バカリモ西南ノ方ナリトゾ。古道今ノ道トハイタク異ナレバ見ステ、過ヌ。

三日。晴。

白川ヲ立テ城外ニあぶ隈川アリ。

行末をかくるもうれし君が代におぶくま川をたのミわたりて橋ナリ。コノ処アブ隈川ノ水上ナリトゾ。半里バカリ来テ右ヘ行バ奥道也。左ヘ入レバ会津道也。一里バカリニシテ大根村アリ。ソレヨリ坂道ニカヽル。險路ニアラズ。飯土用ヘ二里也。コヽヲ出テ二十丁バカリニシテ滑川村アリ。ソレヨリ小屋駅ニテイコフ。此所ヨリをなぬ浦マデ廿三里、コヽヨリ肴ナドクルユエニ生物ヲ見タルコトナシト云。一里半来テ牧ノ内ニテ昼餉を喰フ。コヽノ町ハヅレヨリ左ニトリテ近道アリ。牧ノ内ヨリ永沼ヘ一里、永沼ヨリ勢至堂二里ナルヲ、永沼ヲバ通ラデスグニ勢至堂ニ出、二里ナリ。一里チカシ。カバカリノ近道、世ニ類ヒスクナシ。サテ近道ハ更ニ坂道ナキヲ、井鼻ト云ヨリ勢至堂マデハ、谷合ノ坂道一里十丁バカリノ間、家一軒モナシ。淋シキ所也。コノ辺、水戸播磨守君ノ領也。

勢至堂より上下する坂道凡二里バカリ、タゞ雪のうへのミをふむ。

くれんとする比、三代宿の山形屋ニツキヌ。松屋トイフハ浪華講の宿ナレド、病人アリトテ山形屋ヲヨシヘタルニヨリテ、カシコニヤドル。○日光道中ヨリコノ辺マデ、スベテ女ト男トフトハ別ラズ、女モ股引ハキテ馬ヲ追フコト男ニ同ジ。或ハ二三疋或ハ四五疋ヲモ一人シテ追フ也。オダヤカナル馬カナト思テヨクノミレバ、ミナ牝馬也。四五疋モ一所ニナリテ、女ヤ小兒ニ引レケドモサラニサワガズ。易ニ牝馬之貞トイヘル、宜ナルカナ。

○今日節句ナルユエニ、イトゞ古郷ヲ思ヒ出テ、家にあらバかざしにをりてあそびせんもゝだにさかずさゆるや

ど哉

四日。曇、後ニ晴ル。

払曉三代ノ山形屋ヲ出テ、村々ヲスギ、原駅ニイコフ。天気晴タリ。コノ辺婦人モ大カタ袴ヲハケリ。三代ヨリハタダ雪ノウヘヲフム。雪ノ高サ軒マデツカヘタリト云。カタマレル雪ハ大鋸ニテ切スツルモ目ザマシクヲカシ。

○原駅ニテイコフ。ソコヲ出テアル茶店ニテ猪苗代の湖ノコトヲトフ。コヽノ向ヒノ山上ニ登リ玉ヘバ眼下ニミユル也、案内者ヲ出スベシ、但雪深クシテ御難義ナルベシト云。ソコヨリハタゞ十丁ニタラヌ位ノ処也。口惜シケレド雪ニ恐レテ行ズ。湖長サ十里バカリ、横五六里位ナリトイフ。

○ソレヨリ滝沢坂ヲ過テ城下ニ入ル。御用ノ菓子屋ヲミカケテ羊羹ヲ求ム。ソノ外ノ蒸菓子ハ一向喰フベキモノナシ。一ノ町ノ松川ヤニヤドリテ、スグニ黒河内伝五郎ニ書状ヲツカハス。

○町ニ札ヲ出セルニ、葉種計会所・瀬戸物計会所ナド云コト、ヨリ<ミユ。

あひづ山ふもとの雪のむらぎえにそりのつなでも行やわぶらん  
五日。雨。

朝ヨリ黒河内氏来リテ宿ヲ移ス。野矢与八ヲ始め人々ミナ来ル。宗匠(傍記)〔則野矢与八也〕常方話云、アル乞食ノ僧、会津ニテサル家ニヤドリケルニ、病ツキタリ。家内ノ者ウルサガリテ強テ出シタルニ、道四五丁バカリモ行テ、杖ヲ立テ、杖ニタンザクヲカケ死タリ。とても身の旅路にしなバ塩釜の浦のあたりのけぶりとも哉

六日。晴。

諏方神主宜麻呂、神供の菓子并ニ会津曆を持参。黒河内ニ会津曆之事を聞くに、正之公の御代より公義へ願濟ニテ、于今出来のよしなり。ソノ後マタ人々来リテ短冊ヲ乞フ。ミナソレ々カキテアタフ。集レル人三十四五名ナリ。コレヲヨリ短冊ノ札トシテ四書輯疏一部ヲオクル。スグニ江戸ヘマハシテ御留守所より送りクル、約束也。

七日。曇。

〔頭欄〕〔○〕朝ヨリ例ノ人々来ル。今日ハ日新館ヲ拜見被仰付ベキヨシニテ、午時過ヨリ出ヅ。継上下ナリ。聖廟ノ額大成殿ハ水戸侯ノ筆、御門ノ額金声玉振ハ樂翁公ノ筆ナリ。講堂ノ席ニ予ヲ請ジテ重役ノ人々対面アリ。講尺ヲ乞フ。職員令太政官条ヲ講ズ。ソノ後予ヲ送ル歌ヲ人々ヨメリ。予モヨム。

やさしくも言奉せしか敷しまの道のおくをバしらぬ身にして

宿賃ナドハミナ上ヨリ賄ヒナサル、ヨシナリ。ソノ夜佐藤佐仲ガ許ニ招カル。好物ノ箭筈餅ナリ。マタヨメル、

行かれてやどるもやすし治れる御代にあひ津の山の松かげ

黒河内伝五郎ニワカル、コトノ殊ニナゴリ惜クテ、

春ふかき比にもあらば会津山さくら狩だにしてわかれまし

此度ノ滞留中、萬事ミナ野矢与八・黒河内伝五郎ガ周旋ニヨル所也。

御先祖土津神道ヲ祭レル社ハ、万代山〔則會津山也〕ノ禁ニテ猪苗代ノ湖ヲミオロス高キ所ナルヨシ也。コ、ヨリ六里バカリ也。

御生涯正四位下中将ニテ過サセ玉ヘリ。従三位ノ御モヨホシアリシカドモ御断ナリシトゾ。東福門院ノ御兄弟ニテ、朝廷ノ御体親ナレバ、

イカバカリモ官位ナドス、ミ玉フベキ御方ナレドモ、サナカリシハ殊ニ感心ナリ。

学寮ハ聖廟ヨリ左右ヘワカレテ東西ノ廊下イト広クテミナ学寮ナリ。下ハ学生、二階ハ小児手習場ナリ。泮水アリ。

會津城下、山中ニシテハイト広く、南北十三里、東西五六里ホド平地ナリ。稻至テヨク出来ルナリ。

八日。晴。

若松ノ城下出立、野矢・三河内ノ兩人、町ハヅレマデ送り来ル。ソノ辺ニムカシ人ヲ釜イリニセシ釜トテニツアリ。アヤシキモノ也。土津公ソノ刑ヲトメ、コ、ニ居オカセ玉フヨシ也。

一里半来テ高久ナリ。ソレヨリスコシ来テ高久川土橋アリ。大川ニテ水ハヤシ。塚原川トモイフ。コノ橋上ヨリ會津山ヲカヘリミルニ、

雪斑ヲニ残りテ旭ニ映ジタルサマ、エモイハレズ。

雪斑ヲニ残りテ旭ニ映ジタルサマ、エモイハレズ。

雪斑ヲニ残りテ旭ニ映ジタルサマ、エモイハレズ。

九日。晴、晩頭ヨリ曇。

野沢ヲ立テ雪ノ中バカリヲ過、ヤ、来テ山ニカ、ル。雪聞シニモマサレリ。或ハ大ナル岩ほノ如ク、マタハ波ノ渦巻ルガ如キサマナリ。

手向ヲコエテ四里バカリ来テ津川駅ナリ。家多シ。コノ辺ノ都会トミユ。津川舟ワタシ場ニ會津侯ノ御蔵等モアリ。コ、ヨリ新瀉ヘ舟ト筏トニテ物ヲハユブヨシナリ。水面広サ百七十間、渚サヨリ深キコト、

棹サスニ届カズ。故ニカヒヲツカヒテ渡ル。水ノ行コト矢ノ如シ。高久山・細久南川・船戸川等ノ大川ヲ始メ、ソノ他ノ小川、或ハ谷ニコト、ク合シテコノ大川トナレルユエニ、利根川ヨリモ水多シ。コレ

ヲワタリテ諏訪埠ナリ。上下二里十丁バカリ險難イフバカリナシ。雪ヲノミフミテユクニ、或ハ下八千丈ノ谷、上ハ嵯峨タル險山、下ヲミテ落イランコトヲ恐れ、上ヲミテ撫ニアハンコトヲ恐れ。戰慄オソロ

シナドハオロカナリ。一里十丁上リテ手向ニなやアリ。憩ヒテ下ル。下ル方ハソノ險阻上リヨリモ甚シ。漸クニシテ黄昏ニ湯口ノ藤屋ニツ

キヌ。湯口村家タゞ四五軒アル所ニテミナ農家也。

おもひきや花によそへてめでし雪かくおそろしき物ならんとハ

十日。雨。

湯口ヲ立テヨリタゞ雪ノミヲフミテ三里来ル。赤谷ニイコフ。此辺ニテハヨキ村也。但スハ埜ノ如キ大險ハナシ。ソレヨリ一里バカリ来テ山内村ヨリ平地ニナリ、雪モナクナリヌ。五十公野ヲ過ギテ長キ杉

ノ並木ノ道ヲ行テ新発田ニイル。溝口主膳正ノ城也。吉田太次兵衛ト

イフ書林ノ許ニヤドル。今宵小泉善之助来ル。

イフ書林ノ許ニヤドル。今宵小泉善之助来ル。

イフ書林ノ許ニヤドル。今宵小泉善之助来ル。

イフ書林ノ許ニヤドル。今宵小泉善之助来ル。

イフ書林ノ許ニヤドル。今宵小泉善之助来ル。

イフ書林ノ許ニヤドル。今宵小泉善之助来ル。

イフ書林ノ許ニヤドル。今宵小泉善之助来ル。

イフ書林ノ許ニヤドル。今宵小泉善之助来ル。

イフ書林ノ許ニヤドル。今宵小泉善之助来ル。

イフ書林ノ許ニヤドル。今宵小泉善之助来ル。

十一日。雨。

今日モ吉田氏ニアリテ、小泉来訪シタルマ、二三人閑カニ古今ヲ談ズ。あるじ桃花一枝ヲ手を来テ瓶ニさせり。会津のかたにてはいまだけしきをミざりき。

こしちにもめでたく花ハさく物をかりのかへるをなどうらみけん十二日。曇。

ナホ新発田ノ吉田氏ニアリ。則清村ノ井上仁兵衛桐麻呂ガ許ヨリ文章ヲ見セニオコス。加筆シテカヘス。

#### 新発田報警一件

溝口主膳正侯ノ家中三浦彦大夫組足輕飯島量平、十七才ニテ水戸ノ松平播磨侯ノ城下府中ニテ敵討アリ。其起ハ、量平ノ姉しもトイフ女、同家中宮北勇五郎組足輕飯島惣吉ヘ嫁シタルニ、不縁ニテ量平ノ方ヘ帰リタリ。ソノコトニ付意恨ヲ含ミ、卯十月廿四日曉七ツ時、量平番ノ留守ヲ伺ヒ忍ビコミ、母ヲ殺シ、姉しも二手ヲ負セ、直ニ立退タリ。量平番所より帰り、取敢ズ敵ヲ尋ネニ出タレドモ、見当ラザルニヨリ罷帰り、ソノ後侯ヨリ人ヲ以テ尋サセ玉ヘドモ、近国ニ手ガ、リナシ。仍之量平敵討ニ罷出度ヨシ願候。十六才未ダ若者之義ニ付、叔父丹村平大夫組足輕榎本周五、介借トシテ付添出立、侯ヨリモソノ孝義ヲ感ジテ少々旅用金ヲ賜リ、組頭三浦彦太夫よりも金子并ニ刀一腰ヲ送リタリ。ソレヨリ会津通ヲ本宮宿ヘ通り、仙台ヘ入り尋ヌル処、彼惣吉新発田より米沢通仙台ヘ出、十一月二日より同十七日迄滞留、其後行衛知レズ。コレニ依テ仙台ヲ立チ、三春城下(割書)〔秋田佐渡守〕ヲ尋、針道ト云所より相馬侯ノ領分小高宿ヘ出探リタレドモ見当ラズ。コレニ仍テ岩城平(割書)〔安藤侯城下〕ヲ尋ネ、上田宿ヘワタリ、舟場ニテ聞ケドモ手懸リナシ。小名浜ヘ罷越、浜通ヲシテ中村(割書)〔相馬城下〕ヘ罷越、仙台・白石・福島・二本松等ヲ尋ネ、須賀川宿より棚倉ヘ出、水戸表髪結床ニテ少々手懸之筋有之、廿八日七ツ半時過府中ヘ出、尚又髪結床ヘ立寄、叔父周吾髪結シ折

柄、敵惣吉見留、其場ニテ討果スベキノ所、市中故猶予シテ一先立出、心を付居ル内黄昏ニナリ、叔父周吾一同前後目配リ候ニ、表ノ戸明キ候と心得候処、右惣吉逃去候。右追懸参リ宿端ニテ取押、同夜九ツ時過首尾好打果シタリ。初太刀右ノ肩より同腕ヘカケ一ヶ所、二太刀左ノ肩一ヶ所、三ノ太刀左ノ膝脇ヘカケ一ヶ所、都合三ヶ所ニテ討留タリ。サテ止メヲサシタレドモ、闇夜故心モトナク再トバメサシ、町役人ヘ始末ヲ届出タリ。周吾ハ其場ヘ付添、万端心ヲ付ケタリ。サレドモ助太刀ニハ不及討留タリトゾ。敵討ノ時、周吾殊外心配セシヨシナリ。關討故量平惣吉ノ見分ケ不分候より、未練ノ義モアラバ兩人共討果スナド、声ヲカケシトナリ。其内ニ量平声ニテ討コミタル様子故、切付タリト心得案堵シタリトナリ。量平討留シ刀ハ即チ組頭三浦より貰ヒタル刀ナリトゾ。二ツ所刃コボレタルヨシ也。早速新発田ノ江戸屋敷ヘ通達有之、二月六日鈴木漢五郎ト申人、足輕三人召連、向ヒニ罷越、兩人トモニ新発田ヘ召連カヘリタリト也。未何事ノ沙汰モナケレド、定テ立身被仰付ベシトノ風評ナリ。

蒲原郡ノ内ガラメキ村ニ火ヲトル井アリ。竹筒ノナガキヲ土中ニ埋メ、ソレヨリ火出ヅ。外ヘ懸樋ノ如ク竹ヲツギテソココ、ヘ取ル也。ソノ竹筒ヲカヨフハタバノ氣ノミナリ。モシ物ヲ煮ルトカ明リニ用ルトカイフ時ハ、付木ニ火ヲツケテ、ソノ筒ノ口ヘヤレバ、忽チ火モエ出ヅ。不用ノ時ハ火ヲフキケス也。川尻村ヨリモ出ヅ。コレハ十余年バカリ以前ヨリ出ハジメタリ。打抜ノ井ヲ掘ントテキリヲモミコミタルニ水出ズ。工人云、コレハ水ニハアラズ、火ノ出ル井也トテ、竹筒ノナガキヲイレ、四方ヲ埋メテ火ヲ取ル所トセリトゾ。

工人ハ度々カヤウノコトニ出合テ、ソノ打抜ク時ノモヤウニテ火ノ出ルト水ノ出ルトヲヨク弁ヘキルトナリ。コレヲ風火トイフ。

風火在蒲原其一民屋炉隅処石臼風火出自其穴中始嵌竹筒放于穴口以硫黄挑火有地下風吹発然之勢

十三日。晴。

中飯後新發田吉田太次兵衛忠之(割書)〔新津ヤ〕ヲタツ。小泉善之助氏計送リニ來ル。城外ニ神明宮アリ。ソレヨリ猿橋村ヲヘテ小渡新田ノ茶店ニイコフ。北三十里バカリ平地庄内マデツバキタリトゾ。南西ハ十二三里内外ニ山ミユ。東北ニ飯豊山雪ニ埋レテミユ。ソレヨリ東ニ二王子山(割書)〔ミナ飯豊ノ内ニテ五王子マデアリトイフ〕高ク聳エ、マタ雪ニ埋レタリ。当国ハ北国出地三十七八度ノ間ニアリ。高田ノ城下呉服町ニテ伊能勘ケ由ガ測量ニ三十七度七歩ナリトゾ。高ハマツ百二十万石、細カニツモレバ百七十八万石モアルベシト也。上杉氏ノ時、コノ大国ノウヘニ、出羽ヲ少シ、上州ヲモ少シ、越中不残アハセ持タルニハ、富国強兵ノ術行ハレテ天下ノ豪雄トイハレケンコト、宜ナルカナ。申時バカリニ則清村ノ井上仁兵衛桐麻呂ノ亭ニツク。十丁バカリ前へ遠見ヲ出シオキテ、ソノ者ハシリカヘルト主人袴ニテ迎ニ出ツ。小泉・吉田ト共ニ井上氏ニ入ル。井上氏話云、予ガ支配スル村四十五ヶ村ニテ、口數一万三千余アリ。

十四日。雨。

則清ノ井上氏ニアリ。小泉氏計マタ來ル。今夜小泉止宿ス。

十五日。曇。

さきかゝる花をミすて、行雁ハいづこの春をしたふなるらん

桐麻呂

コレ今日出立スルニヨリテヨメル。朝飯ヲヲハリテ支度ス。小泉氏計マタ葛塚ノ遠藤七郎左エ門亭マデアクテ來ル。其間平地道至テヨシ。二里余ノ所木履ニテ來ル。

雨中花

ひらけそふ軒ばの花に露見へて雨おもしろし春のあしたハ

落花

かこつべきうらみハ春にのこしおきてはやくも花のちりにける哉  
今夜遠藤氏ニヤドル。小泉モ共ニヤドレリ。亭ノ東南ニアタリテ大ナル池アリ。湖トモイフベキモノ也。南北二里東西一里、一面ノ蓮ナリ。カハルトコロヲ越後人ノ語ニ加多トイフ也。

右ノ蓮実甚沢山ナルコトニテ、ミナ漬ニシテ上方へ送ル也。蓮肉ニ用ルナランカ。蓮肉ハ數十年土中ニコボレアリタルガ真物ニテ功能モヨシ。土中ニ幾十年アリテモ朽ルコトナシ。ソノ実至テ堅シ。タゞ鋏ニテモ何ニテモ鉄少シ実ニアタレバ、碎ケハセネ共ソレヨリ葉ヲ生ズ。越ニテハ小ばへ根ヲ采蓮ノ時ナド生ニテハヤシ酸ミノニテ食ス。マタコレヲミツ漬粕ツケニシテヨシ。

コノ国ニ臭水油ト云モノアリ。小泉氏計云、コレ明礬ノ精發スルコト能ハズシテ土中ニ腐敗シタルガ油トナレルナルベシ。火井モマタコレヨリ起ル。故ニ臭水火井大カタ其所ヲ同ウス。コレ潮ニ干満ナキユエ沖ヨリ地氣ヲ圧スルコト能ハズ、依テ明礬トナツテ發スルコトナラヌナルベシ。ソノ証ハ、沖アル、トキハ火井ノ火大ニ盛ナリ。コレ地氣ヲ圧ス故ナリ。但他国ニテモ干満ナキ所ニ明礬モ出來ベケレドモ、コ、ハ海辺(カクノ如ク入コミテ元來遠淺ニテ地氣ヲ圧スコト薄シトイヘリ。

蒲原郡東西南北イヅレモ二十里ナリ。

十五日。晴。

終日遠藤氏ニテ歌文章等ヲ書ス。医人長尾東發來ル。夜ニ入テ村人一兩人來ル。ミナ歌文章ヲ乞フ。

十六日。晴。

ナホ同所ニテ歌文章ヲカク。

十七日。曇、風吹。

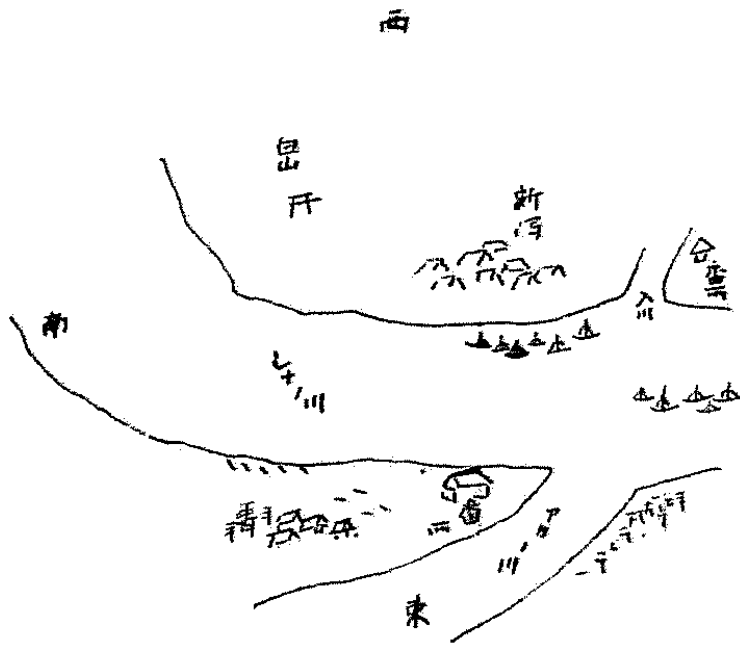
朝葛塚遠藤氏ノ亭後ヨリ舟ニノル。コ、ヨリ堀川ナリ。葛塚繁昌ノ地ニテ町川ノ兩傍ニアリ。所々ニ橋ヲカケタリ。濁川へ一里ナリ。近藤甚介コノ比家内不熟ニテ実家へ引取レルユエニトハズ。ソコヲ出テ支床ト云所少々家アリ。江戸へ廻ル御城米ノ上荷ノ舟數十艘カ、リタリ。シバラク來テ松崎ト云所マタ家多シ。ソレヨリ少シハナレテ川幅イト広キ所ニイデヌ。コレアガノ川ノ合フ処ナリ。コ、ヨリ川水ヲ少シサカノボル也。ソレヨリマタ枝川へ入ル。コレヲ新堀川トイフ。コノ入所風景ヨシ。コレアラタニ堀テ新瀉へノ通船ノ為ニセシモノナリ。

新川二茶店アリ。コノ所ニテ中食ヲタブ。遠藤氏より弁当イト丁寧ニテ送レリ。

未下刻バカリニ新潟ニ着ク。空クモリテ日イサ、カテル。新潟入口アガノ川ト信濃川ト落合所ノ洲先ニ番所アリ。新川ヨリアガノ川へ出テ信濃川ヲ横、ギリワタル。水勢ハヤク川至テ広シ。

舟ヨリオリテ古町通りヲ白山社ニ入り、小林能登守ヲ訪フ。祭事ニ依テ宿シガタキ由ライヒ、甚ソノコトヲクルシガリテ、町人土屋忠左エ門トイフカタニアナイス。飾物師ニテ大家ナリ。夜ニ入テ雨。

〔図〕〔番所、入川、新潟、アガノ川、番所、シナノ川、白山、西、東、南〕



十八日。朝雨、後二晴。

朝飯後懷紙短冊等少シ書之。コノ湊ニ田辺袖子トイフ女アリ。歌ヨムヨシヲ岡部春平ヨリ聞タルニ、よベヨリ来モセズ。サルハ女ナルユエニ男トハコトナレバ、頓ニ出来ガタキユエモアラメド、大カタイヅコハモサシ出ルヨシ聞ツルニハタガヒテツレナカリケレバ、ヨミテツカハシケル、

やつれたる旅の人にハ言のはの花の香しめし袖見せじとや  
コノ家ナドニ用フル鉄類ハ大カタ石見ヨリ買フヨシ也。南部ニモ少シ出レドモ悪シト也。東北ノ国ハ鉄ハナキヨシナリ。

○新發田領二十万石程アリテ内富タリ。故ニ家中ノ物成モ百石ニテ九十倍バカリナリ。ソレニ引カヘ長岡ハ国広ナク、コレマデ新潟御預リノ間ハ新潟表高六百十二石ノ所ニテ万両以上ノ御運上アガリタルヲ、上地ナリ御奉行捌ニナリテ長岡大迷惑ト也。

○川筋コノ節雪消ニテ真ノ満水ナリ。サレドモ家ニ上ルホドノ水ハ一向古来ヨリナシトイフ。

十九日。晴。

今朝ノ食事ニタラノ子ヲタブ。美味也。佐渡ヨリ来ルト也。

朝ノホド、白山神主小林能登守ヨリ弟式部迎ニ来リテ、彼亭ヘウツル。主人話ニ、此辺ノ海ニテハ匏ト云モノ少シモトレズ、ミナ佐渡ソノ外遠方ヨリ来ルト也。

廿日。晴。

小林氏にとゞめられて大被ヲ講ズ。人々来ル。

廿一日。晴。

小林氏にありてなほ大被を講ズ。

ミちのしり こしの国に 山ハしも さハにあれども かくだ山  
弥彦の山 たゝなハる 飯豊の山 うら／＼と かすみなびきて  
里中ゆ はるかにたてり 川ハしも こゝだあれども ちくま川  
あがの川 ミな上ゆ くだる小舟の さをにふれ むれたつかも  
め 鳥すらも ゆたけき国と つまよバひ なきてぞあそぶ 海

ミレバ 庭をしづけて のとのさき いこぎめぐりて くだり入  
る 大舟さハに おくの海 おひてをまちて のぼりくる しら  
帆つどへり 川船も 海路の舟も ことごとくに はつるミなど  
あけたてバ 朝市きほひ 夕されバ 夜市にぎハひ 山遠ミ 日  
高ミの国 川ちかミ 海辺にそひて 物ミなの たらへる国ぞ  
土生田の 船江の里の このにひがたハ

主人話云、十一月上京ノ節、越前今庄ニテ大雪ナリシユエ、家モ何  
モミエズ。雪屋ノ棟ヨリハルカニ高シ。札アルヲミレバ、御宿仕候、  
今庄宿清左エ門此下ニありとイフ札ナリ。ソレヨリ雪ノ九折ヲ下リテ  
ソノ家ニヤドレリト也。コノ今庄ヨリ五六里上方ニ中河内トイフアリ。  
此所日本一ノ雪深キ処ナリトゾ。今日ハ三社講トテ〔割書〕〔天照大  
神宮・春日・八幡ノ三社也〕人々アマタアツマレリ。マタ新潟のうた  
をよむ。

ミすどかる 信濃の国の たかねより 大谷たぎち 端山より  
小谷ミなざり 里中を ちくまながれて 名におへる この川尻  
の 土生田の 船江の大門ハ 朝ミレバ 行水青し ゆふミレバ  
よる波白し ゆく水の 青きよどみに 舟とめて きほふやつこ  
ハ 御調もの 蔵にやはこぶ よる波の しろきあざ瀬に 棹さ  
して うとふをとめハ たハれをの とふやまつらん ながれ江  
の あし間の鷺の 波かゝる ミの毛ふるひて 空にたつ 羽が  
きゆたけし おきつ洲に あそぶミさこの むつまじく あひミ  
はなれて 鳴かはす こゑおもしろし そこゆゑに 日数かさね  
て くさまくら 旅のうけくを わすれけるかも

廿二日。曇、従夕雨。

コノホド火事繁キヨシニテ、今日ハ一人モ来ル人ナシ。午後田辺袖  
子女伴ヲ率ヒテ来ル。松浦花子、コレハ万蔵ト云モノ、後家也。マタ  
松浦久兵衛ノ母、コレハ花子ノ弟ノ女房ニテ嫁ニアタル、コレモ後家  
也。カヒ子ト云、マタソノ松浦方方ノ分家松浦中右エ門ト云モノ、後  
家ナリ。ヨセ子トイフ、コノ四人来リテ歌ヨム〔割書〕〔コノ松浦ノ

親類ニ、与板ニ山田広右エ門トテ風流家アリ。  
主人、松本焼ノ夏冬ノ茶碗ト水指ヲタノム。マタ京之蓮月ガ急須ヲ  
オクリクレヨト云フ。

廿三日。雨、後二晴ル、夜風雨。

大槌屋藤蔵〔割書〕〔坂井〕、藤蔵弟 近江屋文吉〔割書〕〔白井〕、  
〔小書〕〔会津御出入〕 田中宗兵衛、〔小書〕〔呉服小倉ニテ一万  
兩位一年ニアキナフトゾ〕 白崎屋辰二、村山新平、〔小書〕〔呉  
明ノ孫也〕 五十嵐泰庵、〔小書〕〔式部ノ兄也〕 ふきや利兵衛  
式部話云、田上村ノ玉置三郎兵衛、同七郎兵衛トテ二軒ノ金持ア  
リ。一人百万兩位ナリトゾ云々。又水原ノ市島徳二郎トイフハ一  
万俵位加調ヲトルト也。

コノ地ヨリ出タルモノニテ名高キ人三人、一ハ呉浚明、一ハ竜文  
堂、一ハ菱湖ナリ。

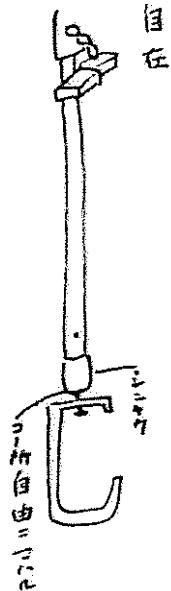
新潟ハ下関ヨリ歌所云々。

今日大祓ヲ講ジ畢ル。人々暇乞ニ来ル。

廿四日。晴。

川ヲ渡リテ新津ノ桂氏ヲ訪ハントスルニ、ヨベヨリ大水ニ船路ムツ  
カシキヨシナリ。ヨベハ町方ヘハ少々屋ヘモ水コミ入タルヨシニテ、  
小林ガ後ロノ堤ヲ、土ヲアテ、大ムシロヲ以テ水ヲヨケナド、種々手  
段ヲメグラス位ユエニ、今朝新津方ヲヤメテスグニ上方ニオモムク。  
赤塚ニテ中食、ソレヨリ馬ニノリテ三里バカリ来テ、牧ガ鼻ノ解〔底  
本、字形不分明。〕解〕と判断する〕 良三郎兵衛ヲトフテヤドル。七  
ッ過也。

〔図〕〔自在、シンチウ、コノ所自由ニマハル〕





真言ノ僧一人、村学ノ師メケルモノ一人、来リテ話ス。  
廿五日。晴。

朝オソク立テ二里バカリ来ル。アル村ニテ天満宮ヲマツレル所アリ。礼拝シテ過グ。弥彦マウデヌコト遺恨ナレド、スベナシ。コレヲモ遙拜ス。弥彦ハコ、ヨリ東ニアタル也。ソレヨリイサ、カナル坂ヲスギテ海辺ニ出ヅ。寺泊トイフ湊アリ。町長クテ相応ノ繁花ノ地ナリ。コ、ヨリ二里来テ山田村ニイコフ。ミナ海辺ナリ。申ノ時バカリニ出雲崎ニ着ク。小家ガチニテ至テ長キ町ナリ。能登ヤトイフ逆旅ニツク。コレ岡部東平ガヲシヘニヨリテ也。コノ能登ヤヨリ西ニハ家モ相応ナルガアマタアリ。

廿六日。晴。

出雲崎ノ能登ヤヲ立テ椎谷ニイコフ。コ、ハ掘出雲守殿一萬石ノ陳屋所ナリ。ソレヨリイサ、カ来テ、宮川ニテ中食ス。コ、ハ与板ノ（マ）割書（井伊兵部少輔）領分ナリ。ソレヨリ柏崎ニテ山田為四郎ヲ訪ヒ、岡部春平ガ状ヲ出セルニ、留守ナルヨシニテアハズ。ソコヲ出テ鯨波ニヤドル。申ノ時分ナリシ。

廿七日。曇、後二雨。

朝トク鯨波ヲタツ。鉢崎ヨリ荒砂ノ浜ニテ道アシカルニヨリ馬ニノル。柿崎ニ至ル。コ、ニテ昼餉ヲタウブ。ソレヨリ瀧町、黒井ヲスグ。此辺ミナ海辺ノ浜砂アラクテ足ハマリコム所ナレドモ、多クハ芝原ナルユエニ、鉢崎ヨリノ道ヨリハアユミ安シ。黒井ヨリ雨イタク降出タリ。仍之黒井ノコナタニ堀久太郎ノ城跡アルヨシナレドモエミズ。荒川（傍記）〔直江川ト云〕ノ渡シヲワタル。川尻ニ船二十艘バカリモ繋ギキタリ。渡リアガレバ今町ナリ。町数多クテ能キ所ナリ。コノ川、高田ヘツゞキタルユエニ高田ノ湊ナリ。依之今町繁昌スルナルベシ。川上十里バカリノ由ナレドモ、妙高山・戸隠山等ノ大山ノ雪げ流れ出ルユエニ大河トナレルモノ也。今町ノ内新町ノこざるやトイフニヤドル。ヨキ逆旅ナリ。

廿八日。晴。

今町ノコザルヤヲ立テ長浜・有間川ト過グ。今町ヨリ少シ南ニ春日山アリ。コレ上杉謙信ノ城跡ナリ。フモトニ林泉寺トテ菩提所アリ。コレニ謙信ノ墓アリ。林泉寺山門ノ額謙信ノ筆、并ニ木像等モアリシ由ナルヲ、去年祝融ノ災ニミナヤケテサラニ遺物ナキヨシナルニヨリ上ラズ。

はるの日をかすがの山のおぶこどりよぶともかへるむかしならめ  
や

行へなくかすめる空のかなしきは何のもよほすあはれなるらん  
今日梶屋敷ニヤドラントシテ急ギツレドモ、源藏足痛ユエ、梶屋敷マヘノ川モハヤ船ヲトメタル後ニツケリ。仍之イカゞセントオモフニ、老尼一人ワタリ来レリ。イカゞシテ渡リ来レルカトトフニ、橋板一枚ノコレヲフミテ渡リ来リトイフ。サラバソレヲワタラントイフニ、尼云、私ニテ女ニテ剃髪セシ位ノ不仕合者、コ、ニテ流レ死テモ惜カラヌ命ユエ、危キヲ堪ヘテ渡リ来レドモ、君ハミマスレバ御武家方、カ、ル危キ所ニ臨ミ玉フベキニアラズトイフ一言ニ、尤トスグニ立帰り、宿ヲ求レドモ、コノ川東ノ里ハ浦元ノ中宿トイフ端村ニテミナ漁家ナレバ、ヤドルベキ所ナシ。タゞ湯屋一軒アリ。兵三郎トイフ。コノ者情アル者ニテ、御人躰ヲ見申ニ、コノ所ニテ外ニヤドリ玉フベキ家ナシ、私ノ内トテモ同様ノキタナサナレド、マツ入セ玉ヘト云テ、案内セリ。

（未完）